

こどもの放牧

-4つの柵がもたらす開放的制御建築-



▲トランポリンから休憩所を見る。

01 設計趣旨

親子の絶対距離の拡張

※親子の絶対距離…親と子が視線で繋がる距離と定義づける。

4つの柵を用いてこどもの動線を親の視線の範囲内に誘導することで、絶対距離を拡張する。絶対距離の拡張は、親子それぞれの自由度を向上させ、その結果、親同士子ども同士のコミュニティを向上させる。公園が単に親子だけで楽しむ場所ではなく、親子がそれぞれ主体性を持って楽しめる場所になることを期待する。

02 現状が招く親子の距離感

対象敷地では、遊具とトイレの関係が200mの距離により機能が完全に分離している。

公園に遊びに来た親子のどちらかがトイレに行く時、「一緒に行く」か「1人で行く」の選択が生まれる。この時の親子の距離感を考察してみた。



▲公園のトイレと公園の関係

03 行為の分析



04 考察結果

2つの距離感では親と子が共に充実できない。そこで親と子、お互いが充実するために絶対距離を拡張する必要がある。

05 放牧 (設計キーワード)

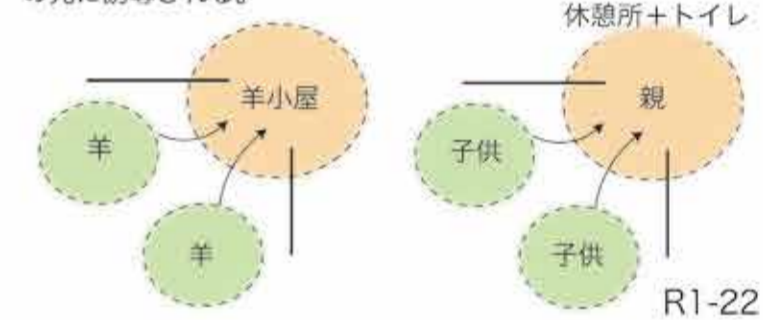
羊飼いは日中、羊を自由に放し飼いにしている。そして日没時、羊は柵と牧羊犬により誘導され、自然と羊小屋へと帰っていく。



▲羊の放牧と羊小屋の様子

06 放牧のシステムとアウトプット

放牧のシステムを中城公園の休憩空間に落とし込む。自由に子供がトランポリン遊具で遊び、休憩する時、柵により自然と親の元に誘導される。



▲東側立面イメージ

▼最高高さ +5,400

▼GL+0

設計概要	
延べ床面積	257.50 m ²
最高高さ	5400mm
構造	壁式RC造
仕上げ	屋根 シリコン樹脂塗装 軒裏 エポキシ樹脂塗装 外壁 エポキシ樹脂塗装 内壁 ウレタン樹脂塗装 床 磁器質タイル ルーバー セランガンバツ



▲子供が遊歩道からトイレを見る。

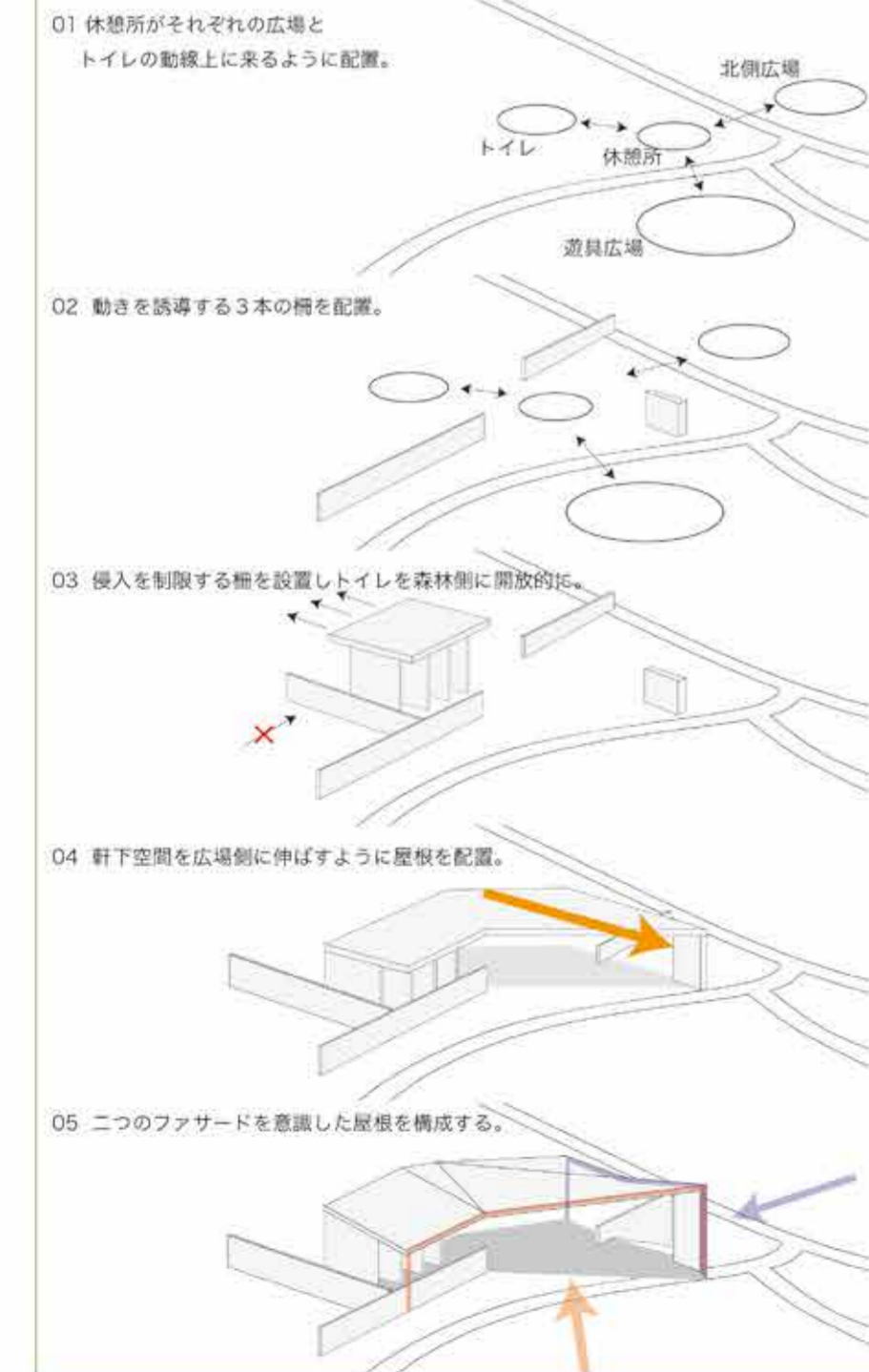


▲休憩スペースが広場に向かって開いている。



▲遊具広場から休憩スペースを見る。

07 設計プロセス



08 平面図

